

世 界 史

(問 題)

2023年度

〈R05173412〉

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～11ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	● 良い	○ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い	○ 悪い

5. 記述解答用紙記入上の注意
 - (1) 記述解答用紙の所定欄（2カ所）に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
 - (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
 - (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数字見本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- (4) 受験番号は右詰めで記入し、余白が生じる場合でも受験番号の前に「0」を記入しないこと。

	万	千	百	十	一
(例) 3825番⇒		3	8	2	5

6. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
7. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。
8. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
9. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

I 次の文章を読み、設問1～9について解答を一つ選んで、その記号をマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

中国で10世紀に成立した宋朝では、社会・経済が発展し、イスラーム商人が中心であった南海交易に中国商人も積極的に進出した。こうした状況に対応して、沿岸の諸都市には市舶司がおかれ、関税、ならびに買い上げた商品の専売あるいは売却益は、財政で重要な位置を占めるものとなった。

ついで、13世紀に大モンゴル国（モンゴル帝国）が出現すると、ユーラシアの東西を結ぶ内陸交易はますます盛んになった。さらに、フビライによって南宋が滅ぼされ、元朝による中国の統一支配が実現する一方、チャンパーやジャワへの遠征が失敗すると、13世紀の終わりには、「海の道」とユーラシア大陸の内陸交易網が結合され、いわゆる大交易時代（第1次）が到来した。

ところで、「オアシスの道」「草原の道」として知られるユーラシアの内陸交易ルートに加え、中国南方の沿岸部から東南アジア、インド、西アジア、アフリカ東岸に至る「海の道」も、古くから機能していたと考えられている。その証左として、一般的にメコン川流域に栄えた扶南の外港であったとされる（あ）からは、ローマの金貨、ヴィシュヌ神像、後漢の鏡など、東西の様々な遺物が出土している。

14世紀に入り、モンゴル帝国が分裂傾向を強め、また元を北方に追いやって成立した明朝の洪武帝が、倭寇の封じ込めと密貿易の取締りを狙って海禁政策をとると、大交易時代はひとたび幕を閉じることになった。しかし、明朝の海禁政策は、密貿易や倭寇の横行によって次第に行き詰まり、16世紀になると弛緩した。こうして中国から輸出される交易品の対価として、16世紀以降、メキシコ銀や日本銀が大量に流入すると、それは明朝の税制にも影響した。

つづく清朝でも当初は海禁が基軸であったが、鄭氏台湾を降伏させ、また三藩の乱を平定した康熙帝のときには、海外との貿易を受け入れる港として上海、寧波、漳州、広州に海関がおかれたのに加え、厳格な管理の下で民間の中国商人が海外貿易に出ることも認められた。しかし、18世紀には、中国に海路来航する西洋商人は広州に集約され、公行と呼ばれる特許商人組合を通じて貿易をおこなうことになった。あくまでも正しい貿易は朝貢貿易であると考えられていたため、民間交易は首都・北京から遠い「辺境」でおこなわれたのである。たとえば、ロシアとの交易について、朝貢貿易の枠組みでおこなわれた北京での貿易に加えて、雍正帝のときに清朝とロシアとの間で結ばれた条約でツルハイトゥとともに交易場が開設されたのは、国境地帯の（い）であった。

時期によって変化があるとはいえ、こうした明朝や清朝の基本的な対外政策は、密貿易を含めた民間貿易を取り締まることで朝貢貿易の価値を高めるとともに、貿易や出入国を国家が統制するものであった。江戸幕府による対外政策も、こうした中国の海禁政策と共通性があると評される。

しかし、19世紀になると、清朝はたびたび戦争に敗れ、開国を求める圧力に屈することになる。広州、福州、廈門、寧波、上海の5港が開かれ、公行が廃止されたのみならず、中国人の海外渡航が公認され、たとえばアメリカ合衆国への移民も盛んにおこなわれた。

辛亥革命と中華民国の成立、日中戦争と国共内戦を経て成立した中華人民共和国は、「大躍進」運動や「文化大革命」による社会・経済の混乱を経験し、また外交的にもソヴィエト社会主義共和国連邦（ソ連）との対立があったものの、1978年以降、鄧小平らによって唱えられた改革・開放政策の下で、たとえば深圳などに経済特区を設けて積極的に外資を導入するなどし、飛躍的な経済成長を遂げるに至った。さらに、近年、「シルクロード経済ベルト」（一帯）と、「21世紀海上シルクロード」（一路）をあわせて、「一帯一路」と称される広域経済圏構想・計画が提唱されるに至っている。

設問1 下線部 a に関して述べた以下の文のうち、明白な誤りを含むものはどれか。

- ① 黄河と大運河の接点付近にあり、水運による商業網の中心となる開封に北宋の都がおかれた。
- ② 銅銭が多量に鑄造されたのに加え、手形としてはじまった交子・会子が、紙幣として利用されるようになった。
- ③ 農業生産力が向上し、トウモロコシが華北で、サツマイモが江南で栽培されるようになった。
- ④ 青磁や白磁が盛んに生産され、それらは海外にももたらされた。

設問2 下線部 b に関し、「市舶司」がおかれた諸都市に関して述べた以下の文のうち、明白な誤りを含むものはどれか。

- ① 唐の玄宗のとき、広州にはじめて市舶司がおかれた。
- ② 泉州には、宋代に市舶司がおかれ、元代にはイブン＝ハルドゥーンが訪れた。
- ③ 宋代に市舶司がおかれた明州は、明代からは寧波と呼ばれ、唐代には遣唐使船、明代には勘合貿易船の入港地であった。
- ④ 市舶司がおかれた杭州は、南宋のときには臨安と呼ばれ、『世界の記述』（『東方見聞録』）でもその繁栄が紹介されている。

設問3 下線部 c の「海の道」に関して述べた以下の文のうち、明白な誤りを含むものはどれか。

- ① 綿布などの交易品を産する南インドに多く居住するドラヴィダ系の人々は、サンスクリット文学を生み出した。
- ② 航海上の要衝では、林邑やシュリーヴィジャヤなど、港市国家やその連合体が発展した。
- ③ シンハラ人が進出していたスリランカは、交易で栄える一方で、上座部仏教の中心地ともなった。
- ④ ギリシア人航海者が著したとされる『エリュトゥラー海案内記』は、季節風について記している。

設問4 空欄（あ）に入る地名として最も適切なものはどれか。

- ① アンコール
- ② オケオ
- ③ パガン
- ④ プランバナ

設問5 下線部 d に関し、16世紀に生じた税制の変化について述べた文として、最も適切なものはどれか。

- ① 作物の収穫時期に応じて夏か秋のどちらかに、税を貨幣で徴収することになった。
- ② 人口と土地を調査し、賦役黄冊や魚鱗図冊を作成することをはじめた。
- ③ 丁税を地税に組み込んで、事実上地税に一本化して銀で納める地丁銀制に改められた。
- ④ 一条鞭法が各地で実施され、従来の複雑な地税や徭役が簡素化された。

設問6 空欄（い）に入る地名として最も適切なものはどれか。

- ① アイグン
- ② イリ
- ③ キャフタ
- ④ ネルチンスク

設問7 下線部 e に関して述べた以下の文のうち、明白な誤りを含むものはどれか。

- ① この対外政策は、完成をみた17世紀前半より、「鎖国」と呼ばれた。
- ② 長崎の出島で、オランダ東インド会社との交易がおこなわれた。
- ③ 中国人の居住区域として長崎に唐人屋敷が設けられた。
- ④ 対馬の宗氏は、幕藩体制の中で、朝鮮との交易・外交を担った。

設問8 下線部 f に関連し、次のA～Cの出来事を古いものから新しいものへ時代順に並べたとき、適切なものはどれか。

- A アメリカ合衆国大統領リンカンによる奴隷解放宣言
B アメリカ合衆国における最初の大陸横断鉄道の開通
C アメリカ合衆国における中国人移民禁止法の制定

- ① A → B → C
- ② B → A → C
- ③ C → A → B
- ④ C → B → A

設問9 下線部gに関して述べた以下の文のうち、明白な誤りを含むものはどれか。

- ① 毛沢東は、スターリンの死後に資本主義国との平和共存路線をとるソ連を批判した。
- ② 中ソ対立の中、ソ連は中国に対する経済援助を停止し、中国に派遣していた技術者も引き揚げさせた。
- ③ 1960年代には、中国とソ連の国境付近で紛争が散発し、ウスリー川中洲の珍宝島（ダマンスキー島）で軍事衝突が起きた。
- ④ ソ連共産党第一書記であったフルシチョフの訪中で、中ソ対立には終止符が打たれた。

II 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

現代のロシア人は自国の歴史のことをよく「ロシア千年の歴史」という。他方、『ロシアについて：北方の原形』のエッセイでも知られる作家の司馬遼太郎は、ロシア人によるロシア国家の決定的な成立は、15、6世紀のことにすぎないと述べている。両者は矛盾しているわけではなく、司馬は「ロシア国家の決定的な成立」という言い方をしている。「日本史」はもとより「ロシア史」に関しても、そのクニの歴史の始まりからして強大な国家が存在していたわけではない。12世紀初頭に編纂された『ロシア原初年代記』は「ロシア史」の源流に関する有力な文献であるが、そこに出てくる9世紀半ばから12世紀初頭頃までのロシアでは、強大な集権的国家が形成されていたわけではない。

国家としては脆弱であったからこそ、ロシアは、やがて内紛に乗じたモンゴルの侵入を受けることとなった。ロシアに対するモンゴル支配は実に240年にも及び、ロシアは、後にモンゴル支配から脱却する中で、モンゴルから軍事的専制様式を受け継いだといわれる。その後、ロシアはツァーリが君臨する専制国家として版図を拡大していった。

他方、ロシアの隣国の歴史に目を転じてみると、1613年にロマノフ朝が始まる頃までは、ロシアよりもむしろ隣国ポーランドが強国であった。現在のウクライナ人の起源とされているウクライナ＝コサックも、当時、ポーランドの支配下にあった。後にウクライナ＝コサックの首領ボフタン＝フメリニツキーがポーランドに反乱を起こすものの、態勢を立て直したポーランドに反撃され、結局、フメリニツキーは、1654年にロシアの庇護下に入ることになる。しかしロシア帝国下でのウクライナ＝コサックの自治も、徐々に縮小されていき、エカチェリーナ2世の時代には、有名無実化した。

当時、ポーランドは、国内の対立に乗じた周辺国の干渉を招き、数次にわたって国土を分割されてしまう。このポーランド分割によってポーランド人は複数の国に分断されてしまうが、同時にポーランド領に住んでいたウクライナ人もまた分断された。

しかし、この「分断」が、19世紀になるとウクライナ人統一のナショナリズムを掻き立てている。まずロシア帝国統治下にあったウクライナ人に対してツァーリ政府は、皇帝アレクサンドル2世の時代にウクライナ語やウクライナ文学に対して禁圧的に臨んだ。しかし当時、隣接するオーストリア帝国のガリツィアと呼ばれるウクライナ人が比較的多く住んでいた地域（現在の西ウクライナ）では、ウクライナ語やウクライナ文学に対しては寛容で、ロシア帝国統治下でのウクライナ知識人が、ガリツィアに亡命するなどして、ウクライナ人の将来の統一などを夢見た。

1917年のロシア革命後、短期間、キエフ（キーウ）で「ラーダ」と呼ばれるウクライナの独立政権が発足するが、ロシアで成立したソヴィエト政権によって派兵された労農赤軍によって倒された。内戦を経てウクライナ＝ソヴィエト共和国が樹立され、1922年にソヴィエト社会主義共和国連邦（ソ連）が結成されたが、ガリツィアは、旧ロシア帝国から独立したポーランドの支配下に再び入った。かつてウクライナの知識人が夢見たガリツィア（西ウクライナ）とキエフを中心とするドニエプル＝ウクライナとの統合は、皮肉なことに、多くのウクライナの民族主義的知識人が粛清されたスターリン体制下で果たされることになった。

その結果、ソ連を構成していたウクライナの領域は、ソ連結成時からみるとかなり西に拡張している。そしてウクライナが名実ともに独立の主権国家となったのが、1991年のソ連解体によってであった。

設問 1 下線部(1)の時代のロシアの歴史に関して、明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア スカンディナヴィア半島から南下してきたノルマン人の一派（ルーシ）は、9世紀にノヴゴロド国を、その後キエフ公国を成立させた。
- イ キエフ公国は、黒海にも進出し、ビザンツ帝国と交易を積極的に行なった。
- ウ キエフ大公ウラディミル1世は、ギリシア正教を受け入れて、以後、東スラヴ人や西スラヴ人がギリシア正教の文化圏に入っていくこととなった。
- エ キエフ公国では、11世紀には貴族の大土地所有と農民の農奴化が進んだ。

設問 2 下線部(2)に関連する説明として明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア キエフ公国は、チンギス＝ハンの孫バトゥに率いられたモンゴル軍の侵攻を受け、バトゥはロシア南部にカザン＝ハン国を建て、当地ではイスラーム化とトルコ化が進んだ。
- イ モンゴルのロシア支配の様態は、被支配地域によって異なるが、おおむね徴税や兵力供給などの間接支配にとどまり、教会も弾圧されずにむしろ支配に利用された。
- ウ モンゴルの支配に服したロシア各地の諸侯たちは、モンゴル勢が本拠とするヴォルガ川下流のサライを度々訪れ、忠誠を示した。
- エ 新たに台頭したモスクワ大公国のイヴァン3世は、モンゴル支配から脱し、ツァーリの称号を用いた。

設問 3 下線部(3)に関連して、歴代ツァーリの施策の説明として適切なものを以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア モスクワ大公国のイヴァン4世は、大貴族の力を弱体化させて専制政治を推し進め、バルト海に進出して支配権を握った。
- イ ミハイル＝ロマノフを初代の皇帝とするロマノフ朝では、ピョートル1世が、オスマン帝国と戦ってアゾフ海に進出したが、後に敗れて南下政策の断念を余儀なくされた。
- ウ エカチェリーナ2世は、オスマン帝国の保護下にあったクリミア半島に進出してロシアに併合する一方、啓蒙専制君主として西欧法思想や市民的理念にも通じ、農奴制の緩和に向かった。
- エ ニコライ1世は、デカブリストの乱を鎮圧して検閲の強化などで専制体制を維持し、対外的にはバルカン半島の支配権を巡ってオスマン帝国と戦い、バルカン半島での勢力を拡大した。

設問 4 下線部(4)のポーランドに関する説明として明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア リトアニア大公がポーランド女王と結婚して、リトアニアとポーランドは同君連合を結び、ヤゲウォ（ヤゲロー）朝を築いた。
- イ リトアニアがポーランドと手を結んだのは、バルト海沿岸地方に進出していたドイツ騎士団に対抗するためでもあった。
- ウ ポーランド最古の大学であるクラクフ大学（後のヤゲウォ大学）で学んだコペルニクスは、イタリア留学などを経て後に本格的に「地動説」を唱えることとなった。
- エ 16世紀後半にヤゲウォ朝が断絶すると、身分制議会による国王の選挙制度が導入されてワルシャワ大公国が建てられた。

設問5 下線部(5)に関して明白な誤りを含む文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア 第一次分割ではプロイセン、オーストリア、ロシアの3国が、それぞれ自国の国境に近いポーランドの領土を奪った。
- イ 第二次分割で主導的な役割を果たしたのは、オーストリアであり、西欧諸国がフランス革命への対応に追われている際に乗じて、プロイセン、ロシアとともにさらなる分割を強行した。
- ウ 第二次分割後、ポーランドの軍人コシチュシコ（コシチューシコ）が農民を糾合して民族蜂起を企てたが、捕えられて追放された。
- エ 第三次分割の結果、ポーランドは第一次世界大戦の終結後までの1世紀以上にわたって外国の支配下に置かれることになった。

設問6 下線部(6)に関して当時のオーストリアをめぐる内外の情勢として適切な文章を以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ドイツ統一の主導権をめぐってプロイセン＝オーストリア（普墺）戦争に敗れたオーストリアは、領内のスラヴ系諸民族の不満をおさえるために、各民族に広範な自治を付与する連邦国家体制に移行していった。
- イ オーストリア皇帝フランツ＝ヨーゼフ1世は、かつてハンガリー革命運動を鎮圧したが、普墺戦争で敗れると、ハンガリーとのアウスグライヒを結んだ。
- ウ 普墺戦争でオーストリアを破ったプロイセンは、オーストリア内のドイツ人地域を併合して北ドイツ連邦を結成し、ドイツ統一を目指していった。
- エ ロシア帝国がバルカン半島におけるスラヴ諸民族の保護を理由に南下政策をとると、それに反発したオーストリアは、セルビアやモンテネグロを占領した。

設問7 下線部(7)に関して、当時のソ連の結成に加わった共和国として適切なものを以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ベラルーシ イ ウズベキスタン ウ モルドヴァ エ カザフスタン

設問8 下線部(8)で述べられている領土の統合のきっかけとなったものとして適切なものを以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ラパロ条約 イ ミュンヘン会談 ウ 独ソ不可侵条約 エ テヘラン会談

設問9 下線部(9)のソ連の解体の直前期の出来事を古いものから順に並べたものとして適切なものを以下のア～エから一つ選びなさい。

- ア ソ連維持を主張する保守派のクーデタの失敗 → ソ連共産党の解散 → ゴルバチョフがソ連大統領に選出される → ロシア・ウクライナ・ベラルーシを中心とした独立国家共同体の結成
- イ ソ連共産党の解散 → ゴルバチョフがソ連大統領に選出される → ソ連維持を主張する保守派のクーデタの失敗 → ロシア・ウクライナ・ベラルーシを中心とした独立国家共同体の結成
- ウ ゴルバチョフがソ連大統領に選出される → ソ連維持を主張する保守派のクーデタの失敗 → ソ連共産党の解散 → ロシア・ウクライナ・ベラルーシを中心とした独立国家共同体の結成
- エ ゴルバチョフがソ連大統領に選出される → ソ連維持を主張する保守派のクーデタの失敗 → ロシア・ウクライナ・ベラルーシを中心とした独立国家共同体の結成 → ソ連共産党の解散

Ⅲ 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

7世紀にムハンマドによって興されたイスラーム教は、アラビア半島だけではなく東西の世界に向かって大発展を遂げた。ムハンマドの死後、アブー＝バクルがカリフに選出され、この指導の下でジハードと呼ばれる大規模な征服活動を開始したのである。まず東方では、② ササン朝を A で破って中央アジアに迫り、西方ではシリアとエジプトをビザンツ帝国から奪い取って、集団で征服地に移住した。「コーランか、貢納か、剣か」の言葉が示すように、当初のイスラーム教徒の征服活動は、異教徒の被征服民に対して、イスラーム教を必ずしも強制せず、人頭税（ジズヤ）と地租（ハラージュ）を納めれば、従来信仰や生命・財産を保護した。その後、カリフ権をめぐる、イスラーム教徒間に対立が起こり、シリア総督のムアーウィヤが、661年ダマスカスにウマイヤ朝を開いた。この時代にイスラーム勢力はアフリカ北部の地中海沿岸を征圧し、ついに海峡を越えてイベリア半島に進出し、8世紀初めに西ゴート王国を滅ぼして半島の大部分を支配した。さらにピレネー山脈を越えて侵略を続けたが、732年のトゥール・ポワティエ間の戦いで③ フランク王国に敗れた。イスラーム勢力はピレネー山脈南方に後退したが、756年にウマイヤ朝の一族によって、ここに後ウマイヤ朝が建てられ、第8代 B の時代に最盛期となった。

一方、ウマイヤ朝の度重なる外征によって専制的となったカリフや、排他的なアラビア人主義に対する批判が起こり、ムハンマドの叔父の子孫にあたるアブー＝アルアッバースが750年に、ウマイヤ朝を滅ぼし、アッバース朝を開いた。アッバース朝は専制国家の体制を整え、パミール高原を西進した唐軍を中央アジアのタラス河畔で破り、東西貿易の覇権を掌握した。また、アッバース朝第2代カリフであるマンスールはバグダードを首都として、「イスラーム帝国」の基礎を固めた。アッバース朝は、第5代カリフであるハールーン＝アッラシードの治世に黄金時代を迎え、首都バグダードは、唐の長安と並ぶ世界的な国際都市として繁栄を極めた。④ イスラーム文化が各地に普及し、アラビア・シリア・エジプト・ペルシアだけではなく、ヨーロッパのイベリア半島にも、イスラーム文化圏が成立した。しかし、9世紀になると、アッバース朝も衰えを見せ始め、イラン系・トルコ系諸民族の自覚が高まり、⑤ 各地にイラン系・トルコ系の諸王朝が成立した。11世紀になると、⑥ セルジューク朝が興り、イスラーム世界の覇権を握り、アナトリアやシリア沿岸地帯に進出し、十字軍に見られるキリスト教世界との抗争を始めた。

設問1 下線部①に関連して、ムハンマドやイスラーム教について述べた次の1～4の説明の中から誤りを含むものを一つ選びなさい。

- 1 ムハンマドはクライシュ族のハーシム家に生まれ、アッラーから啓示を授けられた預言者であると自覚し、イスラーム教を唱えた。
- 2 ムハンマドは、イスラーム教徒の共同体（ウンマ）を建設し、メッカのカーバをイスラーム教の聖殿とした。
- 3 ムハンマドは、『旧約聖書』を聖典とするユダヤ教や『旧約聖書』・『新約聖書』を聖典とするキリスト教を否定し、ムハンマドが唯一の預言者であるとした。
- 4 イスラーム教の聖典『コーラン』はアラビア語で記され、アッラーへの絶対的服従が示され、信仰と行為の内容はのちに「六信五行」としてまとめられた。

設問2 下線部②に関連して、ササン朝について述べた次の1～4の説明の中から適切なものを一つ選びなさい。

- 1 ササン朝初代の王アルダシール1世は、パルティアを破り、セレウキアに都を置いて、マニ教を国教に定めた。
- 2 ササン朝第2代の王シャープール1世は、突厥と同盟してエフタルを滅ぼした。
- 3 ササン朝は、ホスロー1世の時代に最盛期を迎え、各州にサトラップ（知事）を置いて全国を統治する制度を始めた。
- 4 ササン朝では、ネストリウス派は活動が許され、唐に伝わって景教と呼ばれた。

- 設問3 下線部③に関連して、フランク王国について述べた次の1～4の説明の中から適切なものを一つ選びなさい。
- 1 メロヴィング家のクローヴィスは、正統派キリスト教のアタナシウス派に改宗した後、481年に全フランクを統一し、フランク王国を創始した。
 - 2 カール＝マルテルの子ピピン（小ピピン）は、メロヴィング朝を廃してカロリング朝を創始し、その後、ラヴェンナ地方を教皇に寄進した。
 - 3 カール大帝（シャルルマーニュ）は、800年のクリスマスの日に、ローマ教皇レオ10世によってローマ皇帝の帝冠をあたえられた。
 - 4 フランク王国は、843年のヴェルダン条約により、東・西フランク王国とイタリア王国に分裂した。

- 設問4 下線部④に関連して、イスラーム文化について述べた次の1～4の説明の中から誤りを含むものを一つ選びなさい。
- 1 イスラーム社会では、内面的な精神性や神との一体感を求める思想・運動が盛んになり、このような神秘主義を信奉する者はスーフィーと呼ばれ、また、その思想はスーフィズムと呼ばれた。
 - 2 ガザリーは、ニザーミーヤ学院の教授としてイスラーム諸学の研究を行なった。
 - 3 イスラーム諸学をおさめた学者はウラマーと呼ばれ、また、イスラーム教の礼拝施設はモスクと呼ばれ、説教壇には肖像画や像が置かれた。
 - 4 キリスト教の支配下となったスペインのトレドでは、イスラーム文化の下で所蔵されていたアラビア語文献のラテン語への翻訳が盛んに行なわれた。

- 設問5 下線部⑤に関連して、10世紀半ばにバグダードに入城し、カリフから大アミールに任じられ、現在のイラン・イラク地域を支配した王朝は次の1～4のどれか。適切なものを一つ選びなさい。
- 1 カラハン朝 2 ガズナ朝 3 ムラービト朝 4 ブワイフ朝

- 設問6 下線部⑥に関連して、セルジューク朝について述べた次の1～4の説明の中から誤りを含むものを一つ選びなさい。
- 1 11世紀半ばに、トゥグリル＝ベクがバグダードに入城し、アッバース朝カリフからスルタンの称号を授けられた。
 - 2 セルジューク朝の宰相ニザーム＝アルムルクは、軍制や税制を整備し、各地にマドラサ（学院）を作らせた。
 - 3 セルジューク朝は、マムルークを採用して軍隊組織を整え、また、シーア派の神学と法学を奨励して学問の育成に努めた。
 - 4 11世紀後半、セルジューク朝の一族がアナトリアにルーム＝セルジューク朝を建てた。

- 設問7 **A**に入る最も適切な語を次の1～4の中から一つ選びなさい。
- 1 ニハーヴァンドの戦い 2 カタラウヌムの戦い 3 ニコポリスの戦い 4 カイロネイアの戦い

- 設問8 **B**に入る最も適切な語を次の1～4の中から一つ選びなさい。
- 1 アイバク 2 アブド＝アッラフマーン3世
 - 3 サラディン（サラーフ＝アッディーン） 4 マフムード

IV 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

南北のアメリカ大陸は、大航海時代以降の植民地化、および18世紀以降の政治的独立において互いに異なる経過をたどった。16世紀にスペインの征服者たちが先住民の国家を滅ぼしたのち、南アメリカ大陸に入植したスペイン人たちは農村部や鉱山において先住民を労働力として使用しつつ、自分たちは新しく建設した都市に定住した。そしてスペインの王室は、絶対王政を維持する必要から、植民地において過酷な富の収奪をおこなった。植民地生まれの白人はクリオーリョと呼ばれ、植民地において支配層に属したが、統治の実権は本国スペインから派遣される役人たちに握られていた。また、白人とインディオは支配=被支配の関係にあったものの、両者は同じ社会の構成員であり、混血も進んだ。このように、スペインの南米植民地では植民地化の過程において人種や階層の多様化が見られた。

北米大陸で入植を企てたイギリスは、先住民部族に主権を認め、各部族と条約を交わすことで土地および諸々の権利を手に入れていった。条約によって土地を退いた先住民たちの社会は入植者たちの社会と基本的には隔絶され、二つの社会は、接触はしても混交することはあまりなかった。入植者たちは主に自営の農民や商工業者として定住したが、黒人奴隷を労働力として利用する者たちもいた。植民地には一定の自治が認められたため、入植者たちの間では自主独立の気風が養われたが、経済的には本国イギリスの重商主義的政策の影響を受けた。18世紀に入りイギリスからの課税の強化などに対して植民地は反発し、独立を目指すようになった。独立を果たしたのちもアメリカ合衆国は領土の拡大を続け、土地を奪われた先住民の強制移住はいつそう本格化した。

スペイン植民地の独立運動を中心的に担ったのはクリオーリョで、彼らはナポレオン侵攻による本国スペインの混乱に乗じて軍事的に蜂起した。シモン=ボリバルは **A** などの地域を、サン=マルティンは **B** などの地域を解放したが、各国を独立させるまでの道のりは険しかった。その理由の一端は、スペイン植民地の社会構造が階層化されていたために、植民地社会が一枚岩としてまとまることがなかった点に求められる。

ラテンアメリカ諸国の独立運動にヨーロッパ各国は介入しようとしたが、イギリスの外相 **f** は南米を貿易市場として獲得するために独立を支持し、アメリカ合衆国大統領モンローも教書を発表してヨーロッパの干渉を牽制した。以降、ラテンアメリカ諸国はアメリカ合衆国との関係をますます深め、アメリカ合衆国の動向がラテンアメリカ諸国の政治に強く影響を及ぼす状況は続いた。

設問1 下線部 a の大航海時代に関わる出来事について述べた次の文章のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- イ 航海王子エンリケの命を受けたバルトロメウ=ディアスは、1488年に喜望峰に到達した。
- ロ ヴァスコ=ダ=ガマが開拓したインド航路において、カリカットは主に絹織物の輸出地として栄えた。
- ハ 西インド諸島では、コロンブスの到達後ほどなくしてスペイン人の植民が開始され、サトウキビのプランテーションが発達した。
- ニ マゼランが1521年に到達したフィリピンでは、16世紀の後半以降ポルトガルによる征服が進んだ。

設問2 下線部 b に関連して、アメリカ大陸の先住民について述べた次の文章のうち、明白な誤りを含むものを一つ選びなさい。

- イ ユカタン半島から現在のグアテマラ付近にかけて成立したマヤ文明では独自の文字が使用され、精密な暦がつくられた。
- ロ メキシコ高原に成立し、「太陽のピラミッド」などの巨大建築物を残したテオティワカン文明は諸都市の統一がなされないまま存続し、スペイン人の侵略を受けた。
- ハ 湖上の都市テノチティランを中心に発展したアステカ王国はスペイン人コルテスによって滅ぼされ、テノチティランの地にはメキシコシティが建てられた。
- ニ クスコを中心に栄えたインカ帝国における国家体制では皇帝が核となっており、スペイン人ピサロにより皇帝アタワルパが捕らえられて処刑されると、帝国は崩壊した。

設問3 下線部 c に関連して、ヨーロッパの絶対王政および王室の植民地政策について述べた次の文章のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- イ ブルボン朝の王フランソワ1世を選挙で破ったカルロス1世は、神聖ローマ皇帝に即位して広大な領土を支配した。
- ロ ポトシ銀山などで産出された大量の銀はヨーロッパに送られて価格革命の一因となり、貨幣地代の高騰を招いたため、ヨーロッパの領主層の経済基盤は強化された。
- ハ スペインは南米植民地においてエンコミエンダ制をしき、入植者たちに対して、キリスト教に改宗させることを条件に先住民を労働力として使うことを許した。
- ニ 絶対王政においては、徴兵制の導入により常備軍が整備され、君主が恒常的に戦争を遂行できるようになった。

設問4 下線部 d に関連して、黒人奴隷に関して述べた次の文章のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- イ ポルトガルはアフリカ大陸西岸のダホメ王国およびベニン王国を滅ぼしたのち、この地で黒人を強制的に連行して奴隷とした。
- ロ 北米のタバコ＝プランテーションはマサチューセッツを中心にはじまり、そこでは白人の年季奉公人と先住民が主要な労働力となり、黒人奴隷が使われることはほぼなかった。
- ハ スペインは、自国のアフリカ植民地から南米植民地に黒人奴隷を送りこんだのみならず、西インド諸島のイギリスやフランスの植民地にも黒人奴隷を供給して利益をあげた。
- ニ リヴァプールは三角貿易の拠点として栄え、イギリスで奴隷貿易が禁止されたのちにも綿花や綿製品の取引で繁栄をつづけた。

設問5 下線部 e に関連して、北米植民地の独立に関わることがらについて述べた次の文章のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- イ イギリスは、北米植民地での税収を増大させるために、植民地で販売される茶に重税を課す茶法を施行した。
- ロ 独立宣言が発表されたのち、第1回大陸会議においてジョージ＝ワシントンが植民地軍の総司令官に任命された。
- ハ アメリカ独立戦争においてはフランスが北米植民地側に立って参戦する一方で、南米に植民地を抱えるスペインはイギリス側で参戦した。
- ニ パリ条約においてイギリスはアメリカ合衆国の独立を承認し、ミシシッピ川以東のルイジアナをアメリカ合衆国に割譲した。

設問6 、には、後に独立した国の名が入る。その国名の組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- イ A ベネズエラ B チリ
- ロ A アルゼンチン B コロンビア
- ハ A ボリビア B ハイチ
- ニ A ペルー B ブラジル

設問7 に入る最も適切な人名を次のイ～ニから一つ選びなさい。

- イ ゴードン ロ カニング ハ ブライト ニ クライヴ

設問8 下線部gに関連して、アメリカ合衆国による対ラテンアメリカ政策について述べた次の文章のうち、明白な誤りを含むものを一つ選びなさい。

- イ アメリカ合衆国はキューバの独立を支援してアメリカ＝スペイン戦争を起こし、勝利したのちに事実上キューバを保護国化した。
- ロ アメリカ合衆国大統領ウィルソンは、セオドア＝ローズヴェルトによる軍事力を背景としたカリブ海政策をあらため、合衆国流の民主主義を広めようとする「宣教師外交」を展開した。
- ハ アメリカ合衆国は1889年よりパン＝アメリカ会議を定期的に開催し、ラテンアメリカ諸国への影響力拡大を図った。
- ニ キューバ危機を受けて、アメリカ合衆国はラテンアメリカ諸国における共産主義の伝播を抑えるために米州機構を設立した。

V 1990年代初頭に南アフリカでは大きな社会変革が行われた。これについて、17世紀半ば以降の歴史的経緯とともに、下記の語句をすべて用いて、250字以上300字以内で説明しなさい。なお、句読点、数字は1字に数え、指定の語句には必ず下線を付しなさい。

ケープ植民地

南アフリカ戦争

白人少数者

アフリカ民族会議

[以下余白]

